



一隅を照らそう
4月号

375号
毎月28日発行

E-mail: info@tougakuin.jp



五島列島見聞記

住職 中島 有淳

日本の最西端は長崎県五島市にある。いわば「異国との境界」である。

一五四九年フランシスコ・ザビエルが鹿児島島の種子島に上陸し、キリスト教を伝えて以来その教えは天草や五島列島にも伝わり、一五八七年豊臣秀吉がキリシタン禁教令を發布。明治六年、明治政府によって信仰が自由になるまで厳しい弾圧が続いた。

五島列島には現在でも四十以上のカトリック教会があり、使用され守られている。中に入ると机の下の棚には島の住人の個人用の経本が置かれ、観光客には手に触れないように注意されている。現在でも普段ここに通って礼拝されている様子が伝わってきます。

五島は現在も山の緑と潮の香と共に静謐な祈りが味わえます。ここは、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として世界遺産になっています。

その昔、この地は遣唐使の最終寄港地でありました。

「三井楽」(国名勝)と呼ばれたその場所から、後に天台宗の祖・最澄や、真言宗の祖・空海が八〇四年に四艘の船団で大陸の唐を直指して出発しました…。

「姫神社跡」は遣唐使史跡として航海安全が祈願されたと伝わり、山王山の遥拝所だったという神社も今に伝わります。

船には遣唐使節のほかには随員として書記官、雑使、使節の従者、通訳、神主、医師、陰陽師、占い担当、射手、楽長、船団管理者、各船の船長、船大工、操舵長、操舵手、水平長、長期留学生、長期留学僧、短期留学僧、楽師、ガラス工人、鍛冶工、鋳物師、大工などが乗船しました。そしてその大多数は漕ぎ手である船員でした。全長約三十メートル、幅約九メートルもある遣唐使船は骨組みを持たない箱型構造で、竹や葦でつくられた網代帆をもつ帆船でした。

一艘に約百人を乗せ荒海を進み、波風に苦しみ無事漂着したのは四艘の内二艘のみ。最澄と空海は別々の船であったため夫々異なる地へと漂着しました。このことにより二人はそれ以降、異なる仏縁を結びやがて無事に帰国することになったのです…。

目を閉じる。

朱に塗られた色鮮やかな遣唐使船がいま出航する。先には海しかない。

船上には意を決した人々が奮い立ち、まっすぐ果てしない海をみつめている。

期待に高まる志。

残してきた人々の期待と想い。

覚悟を決しての渡唐使節団です…。

日本の歴史が動き出す瞬間です…。

(川崎三部研修旅行にて)

折りふしのはな

アネモネ

花屋さんで
おまけに頂いた
一輪のアネモネ

おや？ まあ？

選択肢に全くなかった

アネモネの花

生けてみますと

これが何とも

たおやかで

エネルギーに満ちていて

一輪の花に内在する

大いなる力を

ひしと感じたのです

(遊)



月例行事案内

◎八 日 午後二時

薬師如来祈祷会・花まつり

◎十二日 午後二時

智泉院法要日(於・日本橋茅場町)

◎十八日 午後二時

観音経読誦法要(於・神木観音堂)

◎四月二十八日 午後二時

祈願成就 七難即滅 七福即生

大般若経読誦大護摩

* 毎朝六時より公開で朝のお勤めをしております
ご都合のよろしい時にはご一緒にどうぞ

それぞれの行事で
御札を授与いたします
郵送も受付しております

4/19(土) 月例(※要事前申込)
「止観(坐禅)会」9:30-10:30(¥500)

あそび

○花まつり奉納演奏
お釈迦さまのお誕生日(花まつり)にあわせてインド音楽が奉納されます。

シタール/田中悠宇吾 タブラ/池田絢子

日時: 4月8日(火)14時法要のち15時頃~
費用: 無料(投げ銭歓迎)

○4/13(日) 坐禅で安産!

産前産後の妊婦さん向け坐禅会。
主催・助産院パースあおば

<花説法> 11時~15分程

つつじの満開時期、毎回異なる
テーマで法話を。聴聞歓迎。
4月18(金)、19(土)、20(日)、22(火)、
24(木)、26(土)、27(日)。雨天翌日。

○ロシアとウクライナの停戦協議が大詰めに。トランプ米大統領も前のめりに提案してありますが、双方とも思惑があり仲々進みません。その間にも市民の命が…。

○地下鉄サリン事件から三十年(3/20)。教団の与えた衝撃は大きく、今も苦しんでいる人が多数といえます。また教団の施設から保護された子供達は、いまだどんな気持ちで過ごしているのでしょうか。○大リーグのドジャーズ対カプスの開幕戦が日本で開催。日本選手が四人も出場して視聴率も30%越えの大盛り上がり。大谷選手のショータイムもあり出来すぎのようです。

○川崎市内と東京都稲城市にまたがるローカルな観音霊場「準西国稲毛三十三所観音霊場」。十二年に一度の御開帳が、いよいよ来年(午年)の春に。当山の管理する神木観音堂は第二十八番札所。少しずつ準備が始まっています。

○これから草が生えてきます。これを取り去るのが大切な仕事。「草を取る」とは、「苦さとする」「↓」苦「悟る」に繋がります。励みになります…。

○桜が過ぎればつつじのシーズンです。ご来山下さい。合掌